

日本学術会議 国際対応分科会 自己点検報告書

国際対応分科会(小委員会)名 第1部国際協力分科会 更新日 2012/6/20
(2009/05/01の形式)

国際学術団体に関する事項

国際学術団体名

(和文) アジア社会科学研究協議会連盟
(欧文) Association of Asian Social Science Research Councils
(略称) AASSREC

日本学術会議加入年(西暦) 1989 年

運営組織の名称・役員の構成等

運営組織の名称(欧文) Executive Committee of AASSREC

	会長	会長代理/次期会長	副会長	事務局長
(氏名)	Virginia Miralao		Aswatini Raharto	John Beaton
(国)	Philippines		Indonesia	

役員選出方法の概要(120文字程度で記載)

隔年総会におけるExecutive Committee会議で決定(各参加国から代表1名出席)。

加入国・地域の数 13ヶ国

主要加入国(10ヶ国程度を列举)

日本、中国、韓国、インド、オーストラリア、タイ、ベトナム、インドネシア

国際学術団体のホームページURL

<http://www.aassrec.org/contact/>

国際学術団体の年間運営経費

53,681オーストラリアドル/5年間

日本の分担予定額[事務局で記入]

81千円(2012年度)

国際学術団体の活動状況

総会・学術研究集会の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催地	参加者数	日本からの 参加者数	学術会議共催/ 協賛の有無
2011年	総会・大会	インドネシア(マナド)	100人	3人	無
2009年	総会・大会	バンコク(タイ)	100人	4人	無
2007年	総会・大会	名古屋(日本)	300人	250人	共催
2005年	総会・大会	デリー(インド)	100人	2人	無
2003年	総会・大会	キャンベラ(オーストラ リア)	100人	2人	無

運営に関する会議の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催場所 (機関等)	参加国数	日本からの 代表者名	学術会議の 代表派遣数
2012年	Executive Council Meeting	マニラ(フィリピン)	4	なし	0
2010年	Executive Council Meeting	ジャカルタ(インドネシ ア)	4	なし	0
2008年	Executive Council Meeting	バンコク(タイ)	4	小谷汪之	1
2006年	Executive Council Meeting	東京	4	小谷汪之	1
2004年	Executive Council Meeting	キャンベラ	4	小谷汪之	1

出版物等(主要な定期刊行物・不定期刊行物を刊行頻度とともに箇条書きで記載)

各総会・大会の記録をユネスコ・アジア地域センター(バンコク、タイ)の財政支援で出版している。Fay Gale, ed., Youth in Transition, The Challenges of Generational Change in Asia, Regional Unit for Social and bHuman Sciences in Asia and the Pacific, Bangkok, 2005(2003年キャンベラ総会・大会の記録);伊藤達雄・戒能通厚編『アジアの経済発展と環境問題』明石書店、2009年(2008年名古屋総会・大会の記録)、Alakh Sharma et al. eds., Labour Markets and Employment in Asia, Delhi, 2009.

活動状況(各項目につき過去5年間の状況を120文字以内で記載)

国際機関等の提唱で行った活動
なし
国際機関等への提言等
なし
国際事業等への参加・実施等
なし
全世界的/地域的研究課題への取組み
インドネシアの津波被害にかんする調査団との連携
発展途上国への対応
未加盟のカンボジア、ラオスなどに呼びかけ、オブザーバーとして参加してもらうとともに、正式加盟を勧誘している。

関連学術分野の動向と今後の重要課題(120文字以内で記載)

2009年8月開催の第18回隔年総会・大会(バンコク)では、多文化主義の問題を取り上げた。今後もその時々的重要課題を取り上げて、各加盟国がそれぞれの国の抱える問題について討議を深めると同時に、隔年総会・大会で互いに交流することが重要である。次回の隔年総会・大会は2011年秋にインドネシアで開催の予定。

国内における国際学術団体への対応状況

国際学術団体の役員就任状況(過去10年間・新しいものから遡って5件まで記載)

国際学術団体における 役職名	氏名	任期	
		開始年	終了年
副会長	戒能通厚	2007年	2009年
会長	戒能通厚	2005年	2007年
副会長	戒能通厚	2003年	2005年

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名

第1部国際協力分科会

学術会議以外の国内対応組織・委員会等

なし

国内の関連学協会等の状況(主要なもの5件まで記載)

学協会の名称	会員数	学協会のホームページURL
アジア政経学会	1332人	http://www.jaas.or.jp/pages/rules_offer/index.html
日本法社会学会		http://wwwsoc.nii.ac.jp/hosha/
日本教育学会	2965人	http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsse4/gaiyo-j.html
日本社会学会	3600人	http://www.gakkai.ne.jp/jss/about/introduction.php

学術会議の国際対応分科会(小委員会)の活動状況

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名
所属分野別委員会

第1部国際協力分科会
第1部国際協力分科会

分科会(小委員会)の構成

委員長	副委員長	幹事	
山本 眞鳥	杉原 薫		

会員数	連携会員数	特任連携会員数
7人	6人	2人

分科会(小委員会)の活動方針(箇条書きで120文字以内で記載)

AASSREC/IFSSOへの対応。ISSCとの協力。アジア学術会議への対応。

今期の会議開催状況(開催日時の新しいものから遡って6回まで記載)

会議開催日時 (2009/05/01の形式)	主な審議事項・議題等
2012/6/18	第1部国際協力分科会(第3回) 13年4月に開催予定のAASSREC総会でカントリーペーパーを発表するための準備シンポジウムの準備・打ち合わせ。IFSSO理事会の報告。2015年度に東京・成城大学で総会を開催予定。
2012/4/9	第1部国際協力分科会(第2回) AASSRECカントリーペーパーの準備のため9月29日にシンポジウムを開催することを決定。開催までの手順を決める。
2011/12/27	第1部国際協力分科会(第1回) 役員の決定と今後の活動について確認。平成24年度AASSREC、IFSSOの代表派遣の被推薦者を決定。

日本における国際学術団体の活動の周知・広報の状況(箇条書きで120文字以内で記述)

2007年名古屋総会・大会の記録を『アジアの経済発展と環境問題』(明石書店、2009年)として刊行し、後援諸学会、協賛団体等に配布した。

国際対応における国内学協会との連携状況(箇条書きで120文字以内で記述)

2009年6月13日の公開講演会に、多くの学会の協賛を呼びかけ、賛同を得た。2011年6月18日の公開講演会も同様。2012年0月29日に計画している公開シンポジウムにも学会の後援をお願いしている。これらの学会との協力関係はできあがりつつある。

特記事項・国際委員会による指摘事項等への対応状況(箇条書きで120文字以内で記述)

なし。ただし、国際委員会直属から、第一部関連分野別委員会合同の分科会になったことが良い方向に向かっていると考えられる。

分科会・小委員会活動の自己評価等(箇条書きで120文字以内で記述)

隔年総会・大会に向けての準備の態勢が整いつつあり、今後さらに諸学会との協力関係を強めていけば、存在意義を高めることが可能であろうと思われる。